

～市立動物園～



冬も元気に過ごしています

問市立動物園…☎055(233)3875

動物園でくらすポニーは「メーデー(31歳)、シエル(20歳)、ムーミン(15歳)」の3頭です。ポニーは、冬になると冬毛に生え変わり、毛が少し長く密度も増してフサフサになります。昨年までは動物園職員が手作りしていた毛布のポンチョを羽織っていましたが、馬専用の馬着を寄付していただき、より暖かく冬を過ごせるようになりました。

今年の冬も暖かく元気に過ごしています。



▲そろいの馬着がお似合い♡

リニューアル工事のため動物園は休園しています(令和9年3月末頃まで)

休園中の動物たちの様子や最新の情報は
こちらから▶

ホームページ



Facebook



Twitter



とびだせ！市民レポーター！

古墳には不思議がたくさんつまっている！

甲府には、多くの古墳が身近に存在しています。湯村にある『万寿森古墳』と千塚にある『加牟那塚古墳』は、県内で2番目と3番目の規模を誇る「横穴式石室※」が特徴とのこと。今回、特別に古墳の中(石室)を見せていただきました！

※石室…亡くなった権力者の棺を納める場所



▲案内していただいた市歴史文化財課の方と『加牟那塚古墳』の前で。古墳を“昔のお墓”とひとくくりにしてしまうのは、少しもったいないかも！？

石室の広さ 県内第3位！ どうやって石を運んだ？ 『万寿森古墳』

『万寿森古墳』は、6世紀中頃につくられた古墳時代後期の円墳。石室には、裏手にある湯村山から運ばれてきたであろう黄色っぽい安山岩が使われています。比較的小さい石が積み重ねられていて、天井には私の身長以上の一枚石が設置されていました。“どうやって石を運んできたのだろう？”と思われる大きさです。



▲一時期ホテルの倉庫として使われていたため、入り口が鉄の扉で覆われている。その部分だけ近代的でアンバランス

古墳は貴重な史跡

地域の発展や権力者の出現を調べるうえで、重要な資料になる古墳。現代まで残っている全ての古墳は、度重なる自然災害や戦争、開発などの人的災害をくぐり抜けてきた貴重な史跡です。石室に積み重ねられている石の中にはひびが入っているものもありました。“今まさに崩れるかもしれない”と考えると、石室内を歩くには勇気がいられます。長い年月の中で補修が繰り返された形跡も見ることができました。



▲『万寿森古墳』の石室の中。外気温に左右されず、温度が一定に保たれた場所のよう

石室の広さ 県内第2位！ 入り口は南向き！ 『加牟那塚古墳』

住宅街を歩いていると突如現れる円墳、『加牟那塚古墳』。つくられた時代は万寿森古墳より後と見られますが、石室は県内第2位の規模を誇ります。登ってみると、南東に富士山がよく見えました。「これだけ富士山が立派に見えると富士山を目印に入り口をつくりそうですが、きちんと南を向いているんですよ」と興味深い事実を伺いました。当時から死者は北側に頭を向けて



▲『加牟那塚古墳』の石室。奥壁に大きな一枚石が使われている

葬られている事例が多く、加牟那塚古墳の入り口も正確に南側を向いているそうです。古代の人たちが方角を正確に把握していたことに驚きました。入り口は鉄格子になっており、天気の良い日は外から石室の様子が確認できます。

市民レポーターブログ
もご覧ください▶

【市ホームページ】

市民レポーターブログ

検索



今月の担当レポーター 野呂 貴美恵

古墳は、古代の“ランドマーク”としての役割もあるそうです。目印であり、特徴的な建造物。権力者の力を示すものだと、改めて学びました。古墳の周りを見渡すと、古代の人たちが暮らす集落が見えてきそうです。太古の昔に、タイムトリップしてみませんか。

